



令和4年3月23日

国土交通省九州地方整備局

筑後川河川事務所

ロゴマークが決定！特設サイトオープン！ 筑後川本格改修100周年記念事業

令和5年（2023年）、筑後川において本格的な河川改修が始まってから「100周年を迎えます。筑後川河川事務所では、令和5年に向け、流域内外の皆さまと一緒に筑後川を未来へつなげていくことを目的として「筑後川本格改修100周年記念事業」を行います。

この度、事業のスタートとして九州大学芸術工学部の学生の皆さまに作成頂いた「100周年ロゴマーク」について最終デザインが決定し、本日、100周年ロゴマークを公開しました。このロゴマークは、今後、記念事業を周知・PRするための広報活動に活用していきます。

また、この記念事業に関する特設サイトも本日オープンしましたので、お知らせします。

筑後川本格改修100周年ロゴマーク



【100周年特設サイト】 <http://www.qsr.mlit.go.jp/chikugo/chikugo100/>

今後、令和5年度の100周年に向けて様々な情報発信を行っていきます。



問い合わせ先

筑後川河川事務所 流域治水企画室 室長（事業対策官） 高橋 和久

調査課長 田脇 康信

電話 0942-33-9131（代表）

筑後川本格改修100周年ロゴマーク

作成者：九州大学 芸術工学部 藤本 ^{サヤカ}清楓 さん

「未来へ紡ぐ物語」



100周年ロゴマークは、当時、九州大学 芸術工学部の藤本清楓さんが考案された「未来へ紡ぐ物語」に決定しました。藤本清花さんがロゴマークに込めた想いや、造形（デザインの形）の説明は以下のとおりです

●ロゴマークに込めた想い

初めて訪れた筑後川には穏やかな時が流れており、川辺に座りながら「この景色をずっと眺めてたいなあ」と感じました。しかし筑後川が「3大暴れ川」と言われており、氾濫と治水を繰り返して今の姿があることを学習で知り、実際に見た川の姿とのギャップに驚きました。

「筑後川に馴染みのない自分はもちろん、近隣の方々でもこの事実をご存じない方がいらっしゃるのでは？」と思い、この歴史を多くの人に伝えたいなと感じました。

でも残念ながら、大抵の人は「歴史」という過去の事実には興味がないと思います（笑）

そこで、単なる「事実」として羅列するのではなく、過去に起こった様々な出来事を「物語」という親しみやすい言葉で次の世代に伝えることに意義があるのではないかと考え、このロゴを作りました。

●造形の説明

- ・左の三本線は漢字の『川』を、波線は【川の流れ】と水源の【阿蘇山】を、全体が『100周年』を表しています。実はよく見ると「ちくご」の頭文字の『C.K.G』が隠れているので、是非探してみてください（笑）
- ・『物語』というコンセプトに合うよう、レトロで親しみやすい形や色を目指し、フォントはオリジナルで作成しました。川を観察した際に、時間や角度によって少しずつ見える色が違うことに気づき、それぞれ微妙に異なる青色を使いました。
- ・また、水や米などの"恵みをもたらす"という点で筑後川をある意味神聖なものだと捉え、一方で水害を引き起こすこともあります。そこで波の部分に「金」にも「茶」にも見えるアクセントカラーを用いることで、川の恵み（金色）と、水害時に土砂で濁っている様子（茶色）を表現し、これらが筑後川を持つ両面性を表しています。